

第3学年 英語科 学習指導案

熊本市立天明中学校 教諭 堀尾 綾子

1. 単元名 「Unit5 Plastic Waste」 -Here we go 3 (光村図書) -

(※英語と総合的な学習の時間の教科横断型)

2. 単元の目標 (太字は総合的な学習の視点)

- 環境問題に関するプレゼンテーションから話の流れを読み取ることができる。
- 読んだプレゼンテーションについて、感想や考えを伝えあうことができる。
- 環境問題を自分事として捉え、思考・判断を働かせながら解決に向けた実践を目指し、主体的に取り組もうとしている。

- ・ 関係代名詞 which や that が目的語になる文や後置修飾について理解できる。 (知識・技能)
- ・ お互いの考えを知りあうために、プレゼンテーションの記事を読んで感じたことや考えたことを適切な表現を使って伝えあうことができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 単元を通し環境問題を自分事と考え、持続可能な社会創りのために行動計画を考えることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

教材観 本単元は、「海の環境問題」を取り扱っている。プラスチックごみによる海の環境汚染に対して、バリ島の2人の姉妹が起こした運動に関するプレゼンテーションを読み取り、感じたことなどを伝え合う教材となっている。海の環境汚染や、海洋ごみの大部分を占めるプラスチックごみに関して知っていることを確認したり、自分たちとの関連性を感じたりする手立てを講じながら授業を進める。

本学習では、プラスチックごみとそれが及ぼす影響を単元の軸として授業を展開する。プラスチック製品が生活の中に溢れているが、世界中に存在するプラスチックごみが原因で海・陸の生き物が死んでいるという動画教材等を通して、人間の起こす行動が環境や生態系に悪影響を及ぼすと気づき、プラスチック製品の在り方に疑問を投げかける。プラスチック製品の使い方・捨て方を見直し、プラスチックごみを減らすために自分たちにできることを考えて行動を促す。

(2) 生徒観

全体的に落ち着いている集団である。学習意欲や理解力に個人差はあるが、学習に向かう姿勢は概ね良好である。全国学力調査の結果において、自己の意見や考えを表す記述式の正答率が低いことから、授業の中では、個人思考から他者との交流を経て、自己の意見や考えを再構築する営みを大切にしている。また伝え合う際は、理由や根拠を示しながら論立てた形式になるよう、表現の仕方を工夫することを努力事項としている。

(3) 指導観

本単元で扱う内容との関連において、生徒は家庭科の授業(家庭生活と環境の学習)で、5Rs (Reduce, Refuse, Reuse, Recycle, Repair)など、ごみを減らす工夫などについて学んでいる。教科横断的な視点を踏まえ、他教科での学習を活用しながらクイズ形式で、プラスチック製品の普遍性を実感させる。その後、プラスチック製品は生活の中に浸透しており利便性に長けており、生徒たちにとって「なくては困るもの」として位置づけられていることを実感させる。しかし、レジ袋が全国

で有料化等を取り上げ、環境や生態系に悪影響を及ぼしているというプラスチック製品の脅威にも気づかせる。また、日本以外の国のプラスチック削減対策にも目を向けさせ、日本では、どうすればプラスチックの使用量を減らせるのかについて考える機会とする。最終的には、この課題を自分事化し、より少ないプラスチックで生活するために自分ならどう行動していくべきなのかを考えるように促す。言語活動においては「海の環境問題」について、特にプラスチックごみの問題について、内容理解が促され、関連性を感じられるよう、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」を設定して行う。

(4) ESDとの関連

(ア) 本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- 相互性**…プラスチック製品と環境問題は密接な関係があり、これらを見捨てれば地球規模に大きな負荷をかけること、および、人の行動が生態系や環境に影響を及ぼすことがあることを理解する。
- 連携性**…環境問題は一人が努力するのではなく、社会全体で考え、努力していくことが大切だと理解する。
- 公平性**…自分たちだけの世代だけではなく、次世代も豊かな自然環境で生活できるように未来につながる行動をする。
- 責任制**…プラスチックごみ問題を自分事として捉え、消費行為や破棄行動を変えていくなど日ごろから自身の行動に責任を持つ。

(イ) 本学習で育てたいESDの資質・能力

- 批判的に考える力**…便利なプラスチック製品だが、長所ばかりでなく短所もあることにも気づき、不必要な製品を考えることができる。
- 多面的・総合的に考える力**…各国や地域で行われているプラスチック製品の削減運動や課題を知り、自分の考えを持つことができる。また、課題解決のために代替案を考えることができる。消費行動と環境は関連しており、自身のこれまでの価値観だけでなく多角的に思考できる。
- 進んで参加する態度**…自分が社会の一員であることの自覚を持ち、改善につながるような行動を起こす。
- コミュニケーション力をする力**…これからの自身の行動について伝えたり、他者と対話を重ねる中で、自身の考えの幅を広げる。

(ウ) 本学習で変容を促すESDの価値観

- 世代間の公正を認識できる**…自分たちだけでなく、次世代も豊かな環境で生活できる社会に繋がるということを考える。
- 自然環境・生態系の保全を重視する**…自分たちの行動が、海・陸の生態系への変化を及ぼすことを考える。

(エ) 達成が期待されるSDGs

【目標 12】 つくる責任つかう責任

【目標 13】 気候変動に具体的な対策を

【目標 14】海の豊かさを守ろう

【目標 15】陸の豊かさも守ろう

4. 単元の評価規準（太文字は総合的な学習の時間との関連）

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①関係代名詞 which,that が目的語になる文や後置修飾を理解する。</p> <p>②プレゼンテーションの記事を通して環境問題について使われる英語の語句や表現を理解する。</p> <p>③プラスチック製品の長所と短所を理解し、それが引き起こす問題について理解する。</p>	<p>①プレゼンテーションの概要、要点を捉える。</p> <p>②その内容に関して自分の意見や考えを他者と伝えあっている。</p> <p>③プラスチック製品のごみ問題や環境問題を自分事として捉え、解決に向けた実践を工夫して分かりやすく説明している。</p>	<p>①プレゼンテーションの概要、要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考えを他者と伝えあおうとしている。</p> <p>②プラスチック製品のごみ問題や環境問題を自分事として捉え、解決に向けた実践を工夫して分かりやすく説明し、主体的に取り組もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全 8 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>普段どんなプラスチック製品を使っていますか？</p> <p>○身の周りや生活のでよく使用するにプラスチックを認識する。（ストロー・総菜の容器・ビニール袋・ペン・ペットボトルなど）</p> <p>便利で日常的に使われているのに有料化されてるものもあるのはなぜ？</p> <p>○個人で思考した後、班で交流⇒全体共有</p> <p>プラスチックの長所と短所は何でしょうか？</p> <p>○インターネットや図書館を利用して、プラスチックのメリットやデメリットを調べる。</p> <p>○加工が簡単 ▲石油を使う</p> <p>○軽くて丈夫 ▲海洋汚染を引き起こす</p> <p>○持ち運びやすい ▲燃やすと co2 が出る</p>	<p>・様々な意見が出やすい雰囲気を作る。</p> <p>・プラスチック製品が日常生活のなかに多く存在していることに気づかせる。</p> <p>・レジ袋使用以外の方法を消費者に投げかけているということに気づかせる</p> <p>・便利な一方で環境被害や出ることには望ましいことではないことに気づかせる</p>	△ア③

	など		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>現在、日本におけるプラスチック ごみ問題・課題は何でしょう。</p> </div> <p>(教科書 P66 を提示し、次時への導入)</p>		
2	<p>○プラスチックの問題を知る。 ・プラスチックごみが海に流れていること による被害を知る。</p> <p>⇒海の生物の死・ポイ捨てされたプラスチック を食べ物と間違えて陸の動物が食べて しまう。</p> <p>⇒陸の生物の死・多量のプラスチックごみ を燃やす。</p> <p>⇒二酸化炭素の排出量が増加などの自然環 境に影響する。</p> <p>○単元のあらすじを予測し概要をつかむ。 ・イラストを見てストーリーの話題を予測 する。</p> <p>○ホールリスニングを通して聞き、おおよ かな内容をつかむ。</p> <p>※総合的な学習の時間に学んだ SDGS と関 連させたり、他教科で得た知識を活性化か せ、教科横断的な学びにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題を意識できるように、 small talk を生徒とインタラ クティブに行う。その後、プラ スチックごみの被害を受けた海 の生物などの動画を見せる。 ・ 資料の提示や紹介をプレゼン で行う時の伝え方や、グラフの 内容の理解を促すために、ビジ ュアルエイドを使用する。 	
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	<p>○新出文法の確認をする。(関係代名詞 which, that が目的語になる文、後置修飾に なる文)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスニング ・ ペア活動 ・ タブレットを使い、練習をする。 <p>(Part1~Part2、計 4 コマ)</p> <p>○プレゼンテーションの記事を読んで内容 理解し、印象に残った文を抜き出す。</p> <p>○プレゼンテーションの記事を読んで考え たことや感じたことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文法構造の理解だけでなく、自 国の文化を理解し、伝えるこ と、相手の文化も知り、質問や 感想を述べることで、今後の 様々な問題解決の基礎となるこ とを確認する。 ・ 同世代の中学生が起こした環 境問題解決への取り組みにつ いて、印象深い文をピックア ップする。 	<p>△ア① ②</p> <p>△イ① ②</p> <p>△ウ①</p>

7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>日本国外でのプラスチック製品削減活動やリサイクル活動を知ろう。</p> </div> <p>○海外で取り組まれているプラスチックを減らすための政策、及び、プラスチック削減への日本の企業努力について知る。</p> <p>○日本国内外で取り組まれているプラスチックごみ問題の解決策を調べ、整理する。(インターネットや図書館を利用後、ロイロノートにまとめる)</p> <p>○班で共有⇒クラスで発表・交流を行う</p> <p>※様々な取り組みを、総合的な学習の時間に学習したSDGSのゴールと関連させ、見方や考え方を働かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられるスプーン(韓国・インド)の使用、使い捨てプラスチック容器を原則使用禁止(バリ)など。 また各地域で取り組まれている再利用製品にも目を向けさせる。 ・「原則禁止」で本当にプラスチックごみは減るのか問いかける。 ・動画や画像を使用して、プラスチック削減政策について世界に目を向けさせる。 ・プラスチック問題を多面的・多角的に捉えさせる 	
8	<p>○プラスチックごみを減らすためにできることを考える。(Part3)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>企業も私たちも地球も、豊かな未来を創造するために、今後どのように私たちは行動すればいいでしょう。</p> </div> <p>○教科書P70 (Part3)を参考にしながら、英文で書き、自分で考えたプラスチックごみ削減のために実践しようと思う行動を宣言する。</p> <p>○班で共有⇒クラスで交流を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、どうすればプラスチックごみの量を減らせるのかについても考えさせる。 ・一人の努力だけではなく、地球市民みんなが行動を変えないと変わらないと認識させる。 ・宣言を通して行動化を促す。 <p>※振り返りでは単元導入時の振り返りと単元終了時の振り返りを比較し、価値の変容や行動目標の変化を見取る</p>	<p>△イ③ △ウ②</p>